

2025びわ湖トラスト親子環境学習講座

「びわ湖源流の森トチの木観察会」報告書

実施日 : 2025年6月1日(日)

会場 : 平良ふれあいセンター平良ベース(滋賀県高島市朽木平良)

後援 : 滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、巨木と水源の郷をまもる会

助成 : 公益財団法人 平和堂財団

参加者 : 11家族30名(大人:17名・子供13名)

スタッフ:

【講師】滋賀県立大学環境科学部 籠谷泰行先生

【ガイド】巨木と水源の郷をまもる会 3名

【招待】平和堂財団 千秋章造常務理事

【スタッフ・ボランティア】びわ湖トラスト(理事3名、会員4名(ジュニアドクター受講生1名含む、事務員2名) その他2名

プログラム

- 9:30 大津市葛川市民センター駐車場集合、参加証確認、健康チェック用紙回収、会場への移動案内
図配布(自家用車参加者)
- 9:40 平良ベースへ移動開始
- 10:10 平良ベース到着、敷地内キャンプ場へ集合
- 10:20 開会式(挨拶、スタッフ紹介、観察会資料配布)
- 10:40 登山開始前の講義、登山中の注意、準備体操
- 11:00 登山開始、途中随時水分補給
- 12:00 トチノキの巨木到着、樹木の寸法測定、記念撮影
- 12:20 下山開始
- 12:50 登山終了、昼食
- 13:40 自然観察会のまとめ、振り返りクイズ懸賞付き(お菓子)
- 14:00 渋柿の汁を使った染め物(ミニバンダナ)作成開始
- 14:40 閉会式(今後のイベント案内、トラストの活動紹介、挨拶、アンケート回収)
- 15:00 染め物作品を手に持って記念撮影、解散、随時帰路へ

今年の観察会はイベント名にある通りトチノキの巨木を観察することを主目的とした。あるとき営利目的でトチの巨木を伐採して持ち去るという行為が横行し、この地域に残存する樹齢数百年の古木は、現存する場所、数がともに限られていて、今回はキャンプ場施設管理者の私有地内にある見事な巨木を目的地と定め、このイベントとしては初めて訪れる。

数日前より予報は雨であったが、まだ梅雨入りの発表はされていない。実際は小雨が降ったりやんだりの天候で、行動していて苦痛といえるほどの雨は避けられた。例年この時期の登山を伴うこのイベントは実施前から天候に気をもむが、結果的には青空には恵まれなかったものの、気温は15度前後で蒸し暑さも感じず、行動中の快適さとしてはむしろ理想的であったといえる。

会場の平良ベースまでの道筋は、狭路の県道で分かりにくいと判断し、自家用車、バス集合場所は国道367号沿いの大津市葛川市民センターとした。大津駅集合のバスが到着し、平良ベースまで一緒に移動する。

開会式は、キャンプ場内の池のほとりで行う。びわ湖トラストの活動を簡単に紹介し、講師やボランティアスタッフ紹介をした後、講師の籠谷先生が観察会の資料を配布して滋賀県の概要、植物の分類や見分け方などの基礎知識の講義が行われる。その後、残ったトチの巨木を守るため結成し、活動を続けておられる「巨木と水源の郷をまもる会」の小松代表にトチの木の概要・説明と山中で遭遇する危険性のある動物の注意をしていただく。



入念に準備体操をして、観察会に出発する。今年のコースは全行程林道で、転倒や転落の危険は少ないが、途中よりキャタピラを備えた林業作業用の車両のみしか通れない急傾斜の道となる。随所にある水たまりやぬかるみを避けながら進む。雨が降ったため路上にもイモリ的一种アカハラ(イモリ)があちこちで見つかって、参加者の親子(父親と男の子)がつかんで、腹部の赤色を確認している。



植林の中の道が大半を占め、講師の先生が自生している植物の説明をされるが、子どもたちはトチノキを早く見たくて我先にと先生を抜かして、トチノキに真っ先に到着する。むしろ保護者の方が、樹木基部のクマ剥ぎの生々しい跡や、植林の伐採時にでる年輪のよく見える厚さ数センチの円盤状の木材片などに注目され、スタッフに質問してこられた。



目的のトチノキの巨木に全員が着くとまず木の寸法測定。先生が準備された巻き尺と検測棒で幹周と樹高を測る。結果は幹周約6メートル超、樹高は正確にはわからないが20メートル～30メートル。樹の下からは見えないが数十メートル離れたところから見上げると梢付近には多数の白い花が確認でき、この木がまだまだ元気であることがわかる。トチの巨木の下で参加者全員の記念撮影をし、下山にかかる。



今回のハプニングとしては、雨の影響もあって、ヒルが体について中には出血してしまった男の子がいたこと、途中の分岐で右に行くべきところを左に行ってしまう、すぐに気づいて引返したものの時間をロスしたこと、その影響もあって午前中だけで帰られる参加者一家族にはトチノキに到着するや否や、家族だけの記念撮影をして先に下山していただいたこと、トイレが我慢できなくなったお子さんにも先に下山してもらったことなどがある。これらの方々にはスタッフを同行させ緊急連絡のために携帯していた無線機を使って無事下山の確認を行った。改めて、救急用品と緊急連絡のための装備の必要性を認識できた。

13時前に全員無事下山し、参加者はキャンプ場内の炊事施設の屋根のあるところで昼食をとる。



午後はまず籠谷先生から予め配られていたプリントの内容について、質問され答え合わせをする。挙手形式で正解者にはチョコレートかチーズのご褒美を渡すことがわかると、子供たちは一気に我先にと手を上げはじめ、中にはあてずっぽうに答えて不正解を連発する子もいる。予想通りチョコレートの売れ行きが良かったが、チーズだけになっても子供たちの真剣さに変わりはない。先生からの質問が終わり、最後に私が、「最後に難問！ 今日教えていただいた先生のお名前は？」と聞くと、誰一人答えられない!? 籠谷先生、ごめんなさい。来年からはもっとしっかりご紹介します！



先生が帰られた後、恒例のものづくり。今回は柿渋からとった汁を使っての染め物を作る。一辺30センチほどの正方形の布に筆に汁をつけて図柄を描き、いったん乾かすが湿度が高いためドライヤーを使って半ば強制的に乾燥させる。次に消石灰を入れた溶液に浸して柿渋の色を浮かび上がらせる。作品はプログラムにはミニバンダナとしたが、ハンカチといったほうが適切かもしれない。再度乾燥を待つ時間はなく持ち帰り用のビニール袋を配布した。

溶液に浸している間に、巨木と水源の郷をまもる会の川村さんから、栃の実から作るとち餅の説明を受け、とち餅のおぜんざいをふるまって頂いた。当日は、少し雨模様の為、温かいものを頂くのはうれしい。何回もお代わりをされる方も多く、アンケート集計を見れば、好評であった。



閉会式は、例年通り参加者の感想を聞き、この観察会以外の琵琶湖トラストの環境講座の紹介とジュニアドクター育成塾の案内をする。今年は高校に進学した育成塾生でびわ湖に飛来する水鳥の研究を進めている田原君に持参したタブレットで鳥の写真を見せながら説明してもらおうと、子供たちが寄ってきて興味を示していた。最後に小松代表に閉会の挨拶をしていただき、染め物の作品を手に持った子供だけの写真、保護者やスタッフも含めた記念写真を撮って予定通り15時ちょうどに終了することができた。

今年も大きな問題なく予定していたすべてのプログラムを終えることができたこと、講師の籠谷先生や「巨木と水源の郷をまもる会」の方々をはじめボランティアスタッフの方々に感謝しています。また、本文に書いたとおりある意味予報に反して天候にも恵まれたことから、自然の中で迎え入れてくださった樹齢数百年の大トチノキとその雄姿は、この地域の平穏を護る山の神様として感謝の気持ちと畏敬の念を抱かざるを得ません。少々大げさな表現になりましたが、これが自身一ボランティアとしてこのイベントの責任を担っている私の大きな報いであると思っています。

(文責 びわ湖トラスト観察会担当理事 岩崎功志)

